

## 夫と内科皮膚科クリニックを 開業して

石和万美子

いしわ内科・皮膚科クリニック  
(横浜市都筑区)

夫とともに内科皮膚科クリニックを開業して10数年、あっという間に月日が過ぎてしまいましたが、昨年、遅ればせながら神奈川県皮膚科医会に入会させて頂きました、石和万美子と申します。少し、私の経歴からお話します。私は1991年横浜市立大学を卒業、大学附属病院で研修後、同皮膚科学教室に入局し、翌年に外科医の夫と結婚しました。その後、横浜栄共済病院、茅ヶ崎市立病院の勤務期間の合間に2人の子どもを出産。子どもたちを保育園に預け、大学附属病院の非常勤、のちに研究生となり、外来診療を続けていました。2000年ごろからは池澤善郎先生のご指導のもと、アトピー専門外来担当となりました。当時、心理的ストレスや疲れが身体に及ぼす影響について学ぶ機会があり、これまで以上に患者様の話に耳を傾け、共感し、セルフケアできるように指導することを重点的に診療していました。そこで私自身が疲れ切っている患者様に良い診療ができず、自分のケアこそが大切だと気付きました。池澤先生がよく、「先生、楽しく仕事をしなきゃ」とおっしゃっていたことを思い出しては、今でも知らずにガチガチになっている頭と体の力を抜くようにしています。一方そのころ、アルバイトで診療していた自宅近くのクリニックでは、乳幼児から高齢者まで幅広い地域医療の現場を知り、患者様との交流が楽しくてやめられず、子ども達が大きくなるにつれ勤務時間を増やしていきました。大学医局には十分なお恩返しができず、大変心が痛みましたが、時間的にも精神的にも仕事と家庭のバランスが良く、私に合った働き方が出来て幸運でした。

そして、子どもが中学受験を控えた年に夫が外科勤務医をやめて内科で開業することに。その翌年開通予定の横浜市営地下鉄グリーンラインの都筑ふれ

あいの丘駅前でした。付近に内科クリニックが2軒あるので内科皮膚科クリニックにすることを勧められ、私も当時勤めていたクリニックと掛け持ち診療することになりました。地下鉄が開通し、町が出来上がって



筆者(中央)とベテランナース達。休憩中もマスクの日常です

くとともに順調に患者数が増え、皮膚科の診療時間を徐々に増やしていきました。顕微鏡と液体窒素の他に何の設備もない皮膚科ですが、話を聞き、肌に触れるだけで多くの患者様が来て下さるのは嬉しいことです。一つ難点はクリニックが狭い事で、皮膚科患者が多い夏場は内科患者が少なく、何とかやってきましたが、昨今のコロナ感染予防対策に、待合室が混雑すると受付後外出して待っていただいたり、早くに受付を終了したり、患者様にはご迷惑をおかけしています。当院では治療が難しい患者様は近くの昭和大学横浜市北部病院、藤が丘病院、横浜労災病院などに紹介したり、近隣の光線治療器やレーザーをお持ちの先生など、地域の中で大変助けて頂いております。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、夫婦で開業するとどうなのかということ、私の場合は、院長の夫が開業準備から現在に至るまでクリニックの経営、人事、諸々の書類書きなど全て

をやってくれています。当初は私も何か手伝いたいと思っていましたが、夫は私に教えるより、自分でやったほうが楽だと言ひ、私は邪魔にならないよう診療だけしています。診療面では専門分野が異なりますのでお互いカバーできて心強いですし、夫は元外科医ですから切開排膿や縫合などもお願いできます。電子カルテは共有ですので皮膚科が忙しい時間帯のカルテチェックは夫の仕事で、病名付け忘れや両方の科を受診している場合のややこしい特定疾患管理料などの訂正もしてくれます。「カルテは俺がやるから早く患者を診ろ」と言われ、平日夕方5時からと土曜日はフルスピードで診療しています。生活面では朝は夫が先に出勤し、クリニックで事務仕事。私は洗濯、弁当作りや夕食の下ごしらえ、子ども

もの世話がなくなってからはエクササイズ動画で少し運動してから出勤するようになりました。診療が終わると私は先に帰宅して夕食の準備をし、夫は残業してから帰宅するパターンです。たまに皮膚科の患者が多くて診療が長引くと夫が先に帰宅するのですが、ビールを飲んでいるだけで夕食はできていません。仕事も生活もお互いの役割には口や手を出さず、「ありがとう」「お疲れ様」とだけ言うようにしてきました。協力するよりも案外平穩にうまくいくようです。こんな夫婦でのクリニックですが、夫や周囲のスタッフに支えられて楽しく仕事が出来ていることに感謝し、これからも歩いていけたらと思います。

## コロナ禍での開業

## 内田敬久

うちだ皮膚科クリニック  
(横浜市保土ヶ谷区)

2020年10月1日に横浜市保土ヶ谷区上星川にて開業しました。

横須賀共済病院にて研修医1年目の時に皮膚科の先生にすすめられて、2年目に皮膚科研修をしたことがきっかけで横浜市立大学皮膚科に入局しました。医局には19年間在籍させていただき、教授に就任した池澤善郎先生、相原道子先生、当時横須賀共済病院部長であった一山伸一先生、その他数えきれないくらいたくさんの諸先生方に助けられて充実した楽しい医局生活を過ごさせて頂きました。この場をかりて感謝申し上げます。

2020年は本来であればオリンピックイヤーでしたが、コロナ感染の蔓延により一転してコロナイヤーでの開業となりました。4月には設計図が出来上がり、内装の物品や家電、家具を選定するのですが、欲しいものがコロナ禍にて海外発注できずに買えなかったり、値段が高騰したりしていてなかなか選定するのに時間がかかりました。

なにせ借金が高額ですし、消費税10%となり、



優秀なスタッフと

コロナ禍なので開院後の来院患者数の想定もつかないため、少しでもコスト削減となるように努めました。

配達も業界の人手不足にて複数人頼むと料金が跳ね上がるため、玄関前引き渡しで台車を使い1人でクリニックまで運び、組み立て・配置するという重労働が連日続きました。おかげでコストは大分削減

できましたが、肉体的には疲労困憊で筋肉痛の毎日でした。

悲劇は開業1ヶ月前、スタッフ研修1週間前の電子カルテの取り付けの時でした。

なんと電子カルテシステムが受付のカウンターに乗りきらないという事態がおきました。設計事務所が電子カルテメーカーに相談せずに受付カウンターを据え付けてしまったのです。しかしこれから開業という段階であり、今後ずっと狭いまま、不満をかかえたままではどうしようもないため企業に申し付けて、完成した受付カウンターを壊して、再び電子カルテシステムに合う広いカウンターを作ってもらうことにしました。最終的には開業1週間前にカウンターが完成しました。

研修期間も3週間みっちりとり、朝から夕方まで接遇やシステム確認、診察手順、機器使用方法、施術の仕方をスタッフ全員で学びました。

開業して思うのは、みなさん同じだと思いますが、労務、会計、経営、宣伝など初めての事ばかりで、楽しい反面すべて自分で決めなければならない大変さを痛切に実感しております。コロナ禍での開業ということで患者さんの数はスロースタートという感じですが、スタッフが慣れていくには丁度良いペースで逆に良かったと思っております。

開業して9ヶ月が経過しましたが、妊娠／出産の

ため2名が離職、その代わり3名新しくスタッフが入职しました。医師会には入りましたが医師会の諸先生方と会う機会がなく、また開業の際必要な講習会や指導も延期や書面のみという対応が続いていて、きちんとクリニックの運

営ができていいのか少々不安に思うこともありますが、日々笑顔で頑張ってくれているスタッフを見ると開業して良かったと思いますし、充実した日々を過ごしております。白髪と体重は増えましたが……。

今後は周辺の諸先生方と協力して地域医療に貢献していく所存です。

ご指導ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

最後にコロナ禍にて診療されているすべての医療者、スタッフに敬意を表すとともに、ご健勝をお祈りさせていただきます。皆さん頑張りましょう！



皆さんにたくさんのお花をいただきました

## 開院のご挨拶

2018年4月に鎌倉市の雪ノ下にて「かも皮ふ科」を開業いたしました。

当時、上の子が2歳、下の子は10カ月で、開業の当日まで慌ただしく落ち着かない毎日でした。多くの先生方に大変貴重なアドバイスをたくさんいただき、無事に開業の日を迎えることができましたことを、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

私は、幼少時に入院した時の小児科の担当医だっ

た先生にあこがれて、医師を目指しました。しかしながら簡単に医学部に入学することはできず、某大学の薬学部に入りましたが、どうしても医学部への進学を諦めきれず、大学に通いながら再度医学部にチャレンジし、日本大学医学部に進学しました。卒業後は、都立大塚病院にて2年間の初期臨床研修を修了の後に、子どもも大人も男女も問わず診られる皮膚科に魅力を感じ、東邦大学医療センター大橋

## 加茂理英

かも皮ふ科  
(鎌倉市)

病院の皮膚科に入局いたしました。

東邦大橋の皮膚科では、向井秀樹教授をはじめ、斎藤隆三先生、漆畑修先生、そして現在の部長である福田英嗣先生の諸先生方に、多くのご指導をいただきました。

向井先生のご専門が、アトピー性皮膚炎だったこともあり、アトピーの患者さんは入院、外来共に大変多く、患者さんの指導方法や治療方法を日々向井教授にご指導いただきました。向井先生の患者さんとのやり取りは学ぶべき点がとても多く、疾患についてだけではなく、長く付き合っていかなければならない疾患であるアトピー性皮膚炎の患者さんの気持ちも少し理解できるようになった気がしています。

また、福田先生は、要領の悪い私を、あきらめることなくいつも熱心にご指導くださり、初めはとても苦手だった皮膚病理を何とか理解できるようになったり、学会発表や論文を書き上げたりすることができたのは、福田先生のご指導のおかげだと思っています。

東邦大橋からは、河北総合病院、帝京溝の口病院へ出向しました。特に帝京溝の口病院では、日本大学硬式テニス部の主将だったころにOBとして大変お世話になっていた清佳浩先生にご指導いただきました。特に記憶に残っている担当患者さんは、自分と同年の悪性黒色腫の患者さんで、初診から最期までお看取りした患者さんです。清先生にご指導いただきながら、ご本人にとって、残されるご家族にとって、一番良いことは何か、ということをお寝ても覚めても四六時中考えながら、内科の先生と連携して治療を行いました。患者さんから、ご家族から、私自身が教えられたことは本当に多く、一生忘れることのない経験をさせていただいたと思っています。

私が鎌倉で開業をしたのは、鎌倉で生まれ育った夫の両親が歯科医で、約40年前から雪ノ下で加茂歯科を開業しており、夫が実家を継ぐために大学医

局を辞めることになったのですが、ちょうどそのタイミングで実家の隣に引っ越すことができたので、これは願ってもないチャンスと思い、自宅の1階で念願



だった開業をすることにしました。せっかく加茂歯科の隣で開業するので、ロゴマークは初めは同じにしたいと思いました。そのほうが加茂歯科の患者さんにわかりやすいと思ったからです。しかしながら加茂歯科のロゴはカモシカの絵だったので、うーん、さすがにうちは歯科ではなく、皮膚科だから同じにはできない……と思い、知り合いのデザイナーの方に子どもでも馴染みやすいカモの絵をモチーフにしたロゴマークをデザインしていただきました。今でも、子どもの患者さんの中には、私が加茂先生ではなく、鴨先生だと思っている子は多いですが、視覚的に覚えて身近な存在に感じてもらえたら、私は鴨先生でも良いかなと思っています。

今年で3年になりますが、ありがたいことに、鎌倉の患者さんは本当に優しい方が多く、私のほうが励まされたり、体調を気遣っていただいたりすることが多々あり、また、鎌倉市の皮膚科の原尚道先生をはじめとした大先輩の先生方は、大変温かく迎え入れてくださり、この地で開業することができたことを本当に幸せなことだと日々感じております。まだまだ精進していかなければならない若輩者ですが、少しでも地域の皆様のお力になることができるようにがんばっていきたくと思っていますので、皆様ご指導のほどよろしく願いいたします。

# 継承開業致しました

齊藤典充

なごみ皮ふ科  
(海老名市)

この度、2020年10月5日に海老名市において医療法人米元皮膚科医院を継承し、医療法人翠典会なごみ皮ふ科を開院致しました。

私は1993年に北里大学医学部を卒業後、北里大学皮膚科に入局し、これまでに北里大学、横浜労災病院、国立横浜病院（現・国立病院機構横浜医療センター）などで勤務してまいりました。またこれまでの勤務経験の間には数か月間ずつではありますが、岩手県水沢市（現・奥州市）、新潟県中里村（現・十日町市）、鹿児島県名瀬市（現・奄美市）で地域医療にも携わってまいりました。医師になった頃からつい数年前まで私には開業志向はありませんでした。これまで様々な医療機関で勤務するなかで、病棟業務や外来業務、手術や検査、研究など曜日によって異なる業務を行う大学病院や総合病院での仕事はやりがいがあり、楽しく毎日を過ごしてきました。近年では先輩方に呼んで頂き、クリニックで土曜日や日曜日の診療を行い、診療業務以外にも地域医会の仕事もさせて頂いておりました。

このように様々な先生方とお話する機会も多く、充実した毎日を過ごしておりましたが、50歳を過ぎた頃から少しずつ体調に変化を来してまいりました。2019年4月にはメニエール病を発症し、出席予定でした愛媛で開催された第35回日本臨床皮膚科医会総会・臨床学術大会を欠席することとなってしまいました。当時勤務していた病院の耳鼻科の先生からは「働き過ぎですよ」と言われ、少しずつ自身の生活を見直す機会となりました。幸いその後めまいには見舞われておりませんが最近痒疹に悩まされております。そんな時に医局の先輩であり、北里大学皮膚科入局前から大変お世話になっている米元康蔵先生からクリニック継承のお話を伺いました。実は他にもお誘い頂いていたお話もあり、だいぶ悩みました。

皮膚科疾患は慢性化する疾患も多く、根気強く診療を継続し患者さんと付き合っていく必要があります。



筆者（前列中央）と当院スタッフ

すが、昨今、大学病院や私の勤務していた地域の拠点病院は急性期の治療に重点を置く傾向が強くなってまいりました。そのような情勢の中で慢性疾患であり、長く付き合っていく必要のある患者さん達を十分に診療していけるのは診療所であるという考えにようやくたどりつきました。数年前の私であれば医院継承のお話は丁重にお断りしていたと思いますが、丁度自身の今後について考えていたことと、私の妻であります和美が米元皮膚科医院で診療をさせて頂いていたこともあり、継承を決意致しました。

それまで勤務していた横浜労災病院を退職し、米元皮膚科医院で半年間働かせて頂いた後に、なごみ皮ふ科を開院致しました。幸いスタッフはほぼ全員が残ってくれ、新たに導入した電子カルテシステムにも素早く対応してくれました。来院される患者さんも米元皮膚科医院の頃から通院されている方が多く、クリニック名が変わったことに最初は戸惑っていた患者さんも診療所内に入れば見慣れたスタッフが対応してくれることに安心して引き続き通院して頂いております。このことを始めスタッフには大変感謝しております。当院では私と副院長の和美の2診体制で診療にあたっており、時折米元先生にも診療をして頂いております。

海老名市は2021年11月1日には市制50周年を迎

えます。海老名駅西口は再開発が進み、ここ数年で高層マンションが数棟建設され、人口も増えております。今後は地域の皆様に信頼して頂けるような診療を心掛けていきたいと思っております。

2020年初頭より世界中で新型コロナウイルスが蔓延し、地域における様々な講演会、勉強会などが中止を余儀なくされてまいりました。ようやくここ数か月はZoomなどを用いたWeb講演会やWeb会議が行われるようになってまいりました。わざわざ会場に行かなくとも時間さえ合えばどこでも講演を聴講できる利便さではありますが、やはり直接お会い

して情報交換をすることが出来ないことが非常に寂しく思います。私もまだクリニック周囲の先生方には十分なお挨拶も出来ておりません。ようやく医療従事者へのワクチン接種が進み、今回の神皮が発刊される頃には皆様ワクチン接種を終えているかと思いますが、一般の方々へのワクチン接種はまだまだ不十分かと思っております。今後いつ頃から以前のような会が開催できるようになりますでしょうか。ウイルス感染が収束し、皆様に改めてご挨拶出来る日を楽しみにしております。

## 開業のご挨拶 ～食事に力をいれています～

酒井智恵

大磯かもめクリニック  
(中郡)

はじめに、新型コロナウイルスの感染拡大に際し、一日も早い終息を願いつつ、お見舞い申し上げます。また、この混乱の中でも、神奈川県皮膚科医会の皆様にはWeb勉強会など大変お世話になり、誠にありがとうございます。

私は1991年北里大学を卒業後、皮膚科学教室に入局しました。子どもの頃からアトピー性皮膚炎が酷かったため、入学当初から皮膚科を希望していました。西山茂夫初代教授、勝岡憲生前教授、そして出向病院も含め多くの先生にご指導いただきました。医局を退職後は、海老名市の米元皮膚科医院の米元康蔵先生のもとで地域に根差した診療を勉強させていただき、同僚の先生方にも長い間本当にお世話になりました。心より感謝申し上げます。

皆様に助けられてばかりでしたが、栄養学的サポートを診療に取り入れたいと思うようになり、医療法人のメンバーに加わる形で、2019年9月、中郡大磯町に開業いたしました。近くに皮膚科のクリニックが少なく、患者さんにも近隣医療機関にも温かく迎えていただきました。当院は大磯駅と二宮駅の間に位置し、駅近ではありませんが、活きのいい沢山の魚が昼には売り切れる、地元で人気のスー

パーの敷地内にあり、駐車場も共有で使えます。歩いて5分ほどの東海大学医学部付属大磯病院、隣の市の平塚市民病院、平塚共済病院、そして伊勢原市の東海大学



本院の先生方にはいつでも相談してくださいとお声をかけていただき、日頃より大変お世話になっております。また、平塚市医師会皮膚科部会にもお誘いいただき、経験豊かな先生方と直接お話できる機会に恵まれました。開業数ヶ月でコロナ自粛が始まり、勉強会などの交流も休止中ですが、終息後の再開を心待ちにしております。

大磯は海水浴場発祥の地で、有名ホテルロングビーチもありますので、私の中では海のイメージでしたが、3月に入り、山の要素も大きいことに気付き

ました。小さな山々に囲まれており、庭で猪に追いかけられ、鹿と目が合う環境のため、マダニが多く、慌ててパンチとティックツイスターを用意しました。抜糸時に新たに2匹目がいる場合もあり、今年も秋に入る頃まで格闘が続きそうです。しかし、近くを散歩するだけで、川のせせらぎを聞きながら、白鷺や鴨を眺めることができ、豊かな自然に癒やされ、すっかり大磯のファンになりました。

私は何故か患者さんから不定愁訴について相談されることが多く、共感・傾聴したい気持ちと、積み上がるカルテの山との間で葛藤していました（いつも私の外来はスローペースでご迷惑をおかけしました）。不定愁訴も皮膚と関係あるのではと感じ、何か自分に合った方法でやれることがないか探していたところ、日本皮膚心身医学会総会でメンタルと栄養の関連の講演を聴き、しっくりきました。不定愁訴に限らず、覇気のない思春期の生徒さん、アトピー性皮膚炎とまでいかななくても、いつまでも保湿が必要なお子さんが増えていることもずっと気になっていたので、栄養に興味を持ちました。ここでの栄養とは、十分な栄養素で細胞一つひとつをきちんと機能させる分子栄養学に基づくもので、生化学・生理学がメインとなります。具体的には、自覚症状・身体所見を優先しますが採血も行い、十分な栄養を摂

取でき、それを吸収できているか、体内で一緒にたたく栄養素も足りているか、反応を邪魔しているものがないかを探っていきます。一般診療の採血では肝機能障害など異常高値に対処していくことがほとんどですが、栄養では機能が十分かをみるので、基準値内や低値にも注目します。この値ならば、このサプリメントを飲めばいいというものではなく、胃腸の状態、炎症の有無、血糖の維持などが複雑に影響しあっているので、正直言って大変なことを始めてしまったらと思っています。慌ただしい外来中では無理があるため、昼休みの時間帯に自由診療で栄養カウンセリングをしています。やはり基本は食事と考えており、3日間の食事日記を書いてきていただくと、これだけでもかなりの情報を得られます。通常の保険診察でも栄養の話をするため、スタッフも関心を持ち、患者さんの食事内容やおなかの具合、お子さんが第何子か、お母さんの貧血の有無などの問診を積極的に手伝ってくれ、いつも助けてもらっています。自分自身も忙しくなると、食事に気が回らなくなり、偉そうなことは言えませんが、美味しく食べて、皮膚も心身も元気になれるよう、患者さんと一緒に歩んでいきたいと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

## 石の上にも3年

### 畑 康樹

神奈川はた皮膚科クリニック  
(横浜市神奈川区)

横浜市神奈川区の、前職場であった済生会神奈川県病院から近い場所で開業して3年が経ちました。

今回、開業医便りを書く機会をいただきましたので、この3年間で経験した3つのことについて記載させていただきます。

#### ①訴えます

開業するにあたっては色々な道筋があると思います。当院では某卸しメーカーの開業支援グループに

お手伝いしてもらいました。場所は決まっていたので、内装業者を選ぶにあたってはコンペを行うことになりました。一つは自宅を建てた会社の関連業者を、一つは卸しメーカーの紹介の業者でそれぞれ図面を提示していただきました。どちらも良い面、悪い面がありましたが、最終的には自宅を建てた会社の関連業者でお願いすることになりました。

さて、開業して1か月ほど経ったある日、郵便とメールで、卸しメーカーさんから紹介された内装業

者から連絡がありました。なんだろうと読んでみるとこうありました。「御クリニック内観写真をグーグルマップで拝見しましたが、弊社が提出しました図面レイアウトに大変酷似しております。弊社提出済み図面の右下にも表記してある通り、本プランの著作権は弊社にごぞいます。この点について、現在弁護士とも協議をしている処です。」以前この会社から提出された図面を取り出してみると、虫眼鏡でないと見えないような文字で著作権云々というくだりが書いてありました。

これには驚きました。紹介してきた卸しメーカーや実際にお願した業者にも連絡を取り相談しました。グーグルマップの閲覧だけで実際の工事図面を確認したわけではないこと、実際に水場など提出のあった図面とは異なっていること、クリニックという特性として患者導線やスタッフ導線についてはある程度決まっていることなどを卸しメーカーからその業者に説明してもらい、訴えは撤回されることになったものの、嫌な思いを数日間味わうことになりました。

## ②光線機械

当院では勤務医時代より使用し、アトピー性皮膚炎や乾癬の治療に威力を発揮する光線療法の機械を全身型で導入することを決めていました。当時は全身型の光線機械は2社で販売されていましたが、1社に絞り、近いうちに型が変わるので少し安くなると言われた機械を導入しました。看護師さんにその操作にも慣れてもらい、治療を開始する患者さんも少しずつ増えていきました。あるアトピー性皮膚炎の患者さんで既存のステロイド外用や抗アレルギー薬内服ではコントロール不良であったため、この光線療法を導入することにしました。

日焼けしやすい体質とのことで200mJから少しずつ増量していきましたが、ある日(土曜日でした)、光線の機械が停止した後に、突然再始動し始めまし



た。看護師さんが慌てて気づいて止めに行きましたが、その時間はほんの10秒程度でした。患者さんに聞くと、少し熱く感じたとのことでしたが、なんともないということでその日は帰宅いただきました。すると週明けの月曜日の午後、体が赤くなったということで再診されました。診察すると全身日焼け状態です！ 10秒程度でこの状態になるのかと不思議に思いましたが、原因としては光線の機械以外やはり考えられません。ステロイド外用で対応しましたが、夕刻には水ぶくれが出てきたという連絡もあり、翌日には再度受診のうえ、済生会神奈川県病院皮膚科に個室対応で即入院していただきました。

責任を感じたのでほぼ連日お見舞いにも通いました。1週間ほどで退院されたものの、そこからメーカーとのやり取りが始まりました。幸い、メーカーには誠意ある対応を取っていただき、患者には治療費を全額支給、生産しているアメリカにも報告して事故の原因を追究してもらいましたが、結論的には原因不明とのことでした。

このままではその機械を続けて使用する気にならないと、思っていたところ、新しい型の機械に無償で交換していただきました。初めての経験でもあり、医師会にも相談しましたが、患者とメーカーとのやり取りはあるものの、当院が直接訴訟を受けたわけではなかったので、弁護士を紹介していただくには至りませんでした。なお、患者は光線療法後、もともとのアトピー性皮膚炎はすこぶる調子がいいとのことで、現在も当院に光線療法目的で定期的に通院されています。



## ③受付全員離職

あれやこれやで1年が経過したころ、雇用した3人の受付職員が1か月の間に次々と退職したいと申告してきました。生来呑気な性分の私は、開業している友人たちにその話をしたところ、「今まで聞いた中でワースト3に入る事件だね」「3人は示し合わせて退職するのではないか」と色々焦るコメン



トをくれました。結局1人は次の職員が入職して慣れるまでの約4か月、退職を延長してくれたので事なきを得ましたが、ハラハラものでした。

入職しても今度は退職してもらうのも一苦労します。開業してからは会計事務所に雇用問題の相談にも乗ってもらっていましたが、試用期間の2週間以内なら解雇できると知恵を授かりました。ある職員に対して、他の職員の評判も聞いて2週間になる前日に雇用しないと通達したところ、数日して配達証明書付の手紙が郵送されてきました。内容は解雇理由について明記せよとのことでした。周囲の職員から聴取した事項を挙げて記載して返信し、これも事なきを得ました。しかし現在に至るまで雇用に関しては頭を悩ませることの連続です。多くの先輩諸先生から、10年以上経っても悩ましいのは雇用の問題だよというアドバイスをいただくことにより少し気が落ち着くものの、事務長である妻と一緒にため息をつく毎日です。

以上のように決して順風満帆な門出ではありませんでした。しかし、思い返してみると勤務医時代も決して順風満帆な道のりではありませんでした。そんな行き詰った時、支えてくれたのは神皮をはじめ周りの先輩・同僚先生方の温かい言葉でした。仲間というのは尊いものです。さらに去年はコロナ禍が襲い、借金の元金返済が始まる時期に患者さんが減少するというピンチに見舞われました。妻と相談し、経費を節約したりして、今に至っています。勤務医時代、仕事は家庭内に持ち込まない（その代わり家のこともしない？）を信条にしていました。が、現在は身近な妻とも経営に関して相談するようになりました。昭和の男子なので、普段感謝の言葉を口にすることはありませんが、この場を借りて（この原稿が妻の目に触れないことを祈りつつ）、ありがとうと伝えたいと思います。

